

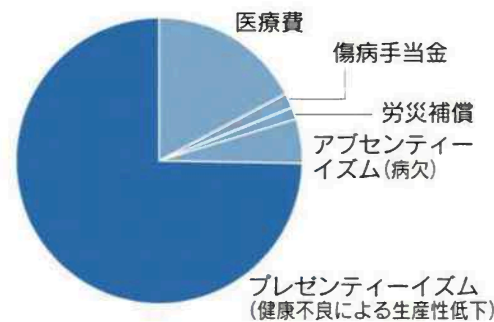
## 健康経営 その先へ (8)

経済産業省は健康経営の効果を①心身の健康関連（個人の心身の健康状態の改善による生産性の向上）②組織（組織の活性化）③企業価値（企業価値の向上）——の3つに分類しフロー図を整理している。①の生産性の向上について考察を深め、さらに②と③についても考えてみたい。

米国の先行研究によれば、健康に関連する企業の総コストのうち、医療費や薬剤費（直接費用）は24%を占めるにすぎず、生産性の損失（間接費用）が約75%を占めるという。生産性の損失の中でも最大のコストは「プレゼンティーズム」という研究が多数ある。

プレゼンティーズムとは、「何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、業務遂行能力や生産性が低下している状態」を指す。ちなみに、もうひとつの生産性損失指標である「アブセンティーズム」は、病欠や病気休業による損失を指す。企業は社員が出勤している限り、対価を支払う。社員が心身の不調により対価に見合う労働を提供できていないとしたら、

従業員の健康関連総コストの構造



(出所) 経済産業省「健康経営評価指標の策定・活用事業」  
東大ワーキンググループ報告

## 苦しむ社員を素直に支援

そのギャップがプレゼンティーズムとなる。

どのような不調がプレゼンティーズムへの影響が大きいかという研究はいくつかあるが、2013年の「健康日本21推進フォーラム」の結果では、メンタル面、心臓、呼吸器、月経不順・PMS（月経前症候群）、胃腸の不調の順番で大きかった。当社独自の研究では、メンタル面の不調、睡眠不足、身体の動きや移動に関する支障の順番で大きかった。

プレゼンティーズムや生産性という、「それが正確に測れるのか」などと難しく考えがちであるが、四の五の言わず「今、どこかが痛くてつらい人」「今、気持ちが苦しい人」「眠れていない人」などを見つけ、個別に介入して症状を改善することで、プレゼンティーズムは確実に改善する。

社員にそのような手をさしのべる企業に対し、社員のエンゲージメント（愛着心・思い入れ）が向上するのは自然なことである。不調がなくなり仕事に集中できれば、仕事の満足度も上がるだろう。

エンゲージメントという言葉は組織活性化の重要なキーワードであるが、最近では「個人と組織が対等の関係で、互いの成長に貢献し合う関係」のことを指すとされている。健康経営優良法人として顕彰されることや、健康経営の取り組みや成果を公表して企業のイメージアップを図ることもリクルートや自社商品イメージ向上のためには重要であるが、真の企業価値とは、企業と社員が互いの成長に貢献し合い、結果として社会に貢献している状態を指すのではないだろうか。